SUNDAI KOFU

愛情教育で進む充実環境

「チャレンジングスピリット」を校是とする駿台甲府中学校・高校（八田政久校長）、駿台甲府小学校（坂本宏行校長）。さまざまな体験の場を提供し、心豊かな人間性を育んでいる。また、駿高では大学受験に向け、駿台グループ（本部・東京）と連携した学習支援体制を強化。建学の精神「愛情教育」の下、成長段階に合わせた「知徳体」を兼ね備えた、たくましい人間教育に力を注いでいる。

来年、創立百周年を迎える駿台グループが擁する全国唯一の高校が駿台甲府高校だ。大学受験のノウハウはもちろん、単なる受験勉強だけにとらわれず、真の学びを深めてもらおうと駿台グループの英知を結集。生徒たちの第一志望実現へ向けて後押ししている。

駿高 駿台の英知結集、後押し

自宅でサテネット視聴

中でも、今年は駿高にいながらにして駿台予備学校の実力派講師陣の講座が受けられる映像講座「駿台サテネット21」が進化した。これまでは2、3年生が対象だったが、1～3年生に拡大。視聴場所も校内のコンピューター室から同室はもとより、希望者に配られたIDを使えば自宅での視聴も可能となり、自前のパソコンやタブレット、スマートフォンで最新の講座が受けられるようになった。

1年の樋口潤さん（甲府南中出身）は「すぐに申し込みました」とにっこり。「ハイレベルな講座を学びたい時に学べて本当にうれしいです」と話す。小山田結さん（1年）＝昭和・押原中出身＝は「古典が苦手で家で復習してもなかなか改善できませんでした。それが、駿台サテネット21を使うことで基礎をじっくり学べる上、自分で考える時間も取れ、効率よく学びを深められて手応えを感じています」と笑顔を見せた。

進路指導の小笠原理教諭は「駿高生の特権です。講座は毎年更新していて駿台本体が配信する最新のもの。オンデマンド配信で、インターネット環境さえ整っていればIDを使うことでどこでも受講できます」と話す。1講座の受講料（含テキスト代）は通常1万円前後から数万円となるが、駿高生はこれらすべて千円で受けられ、複数受講する生徒が増えているという。さらに、駿台の実力派講師陣が来校し、各種講座を開設している。

実力派講師が講座

10月下旬には、駿高でスーパー東大実戦講座を開催。駿台予備学校名物の「箱根セミナー東大コース」の授業を担当し、全国から集うトップレベルの学生を対象に力の入った授業を展開している英語科講師の増田悟さんが講師として来校。熱のこもった講座を展開した。

「要約は第三者の目線で全体の構成とバランスを意識して、自分の答案を客観視する力が大切です。何を書くかより、書かないか。要約は和訳ではないことを理解しよう」。開始早々から、増田さんの軽快なトークに参加した生徒たちはくぎ付けとなった。

参加した女子生徒は「内容の濃い講座でありがたかったです。テキストの内容だけでなく、勉強法や全国のライバルの話も聞け、モチベーションが上がりました」。別の女性生徒も「英作文を書くコツを教えてもらい、参考になりました。受験が近くなると東京へ受講に行くのは負担にもなりますが、駿高にいながらにして全国区のレベルが高い講座を受けられるのは本当にありがたいです」と白い歯をのぞかせた。

増田さんは「予備学校と同じ黒板を使用しているなど〝ホーム〟感覚で講義ができました。中高の教師陣も受講生として参加していましたが、同じ方向を向いて指導していこうという心掛けは大切。第一志望合格のお手伝いができればうれしいです」。

一方で、授業や駿台のグループ力を存分に生かした学習環境のほかにも駿高には魅力があると、女子生徒たち。「勉強、スポーツそれぞれの環境で目標を持って頑張る意識が高い仲間たちばかり。この存在は、第一志望合格を目指す私たちにとって心強い存在です」と口をそろえ、目を輝かせた。

ID番号を入力することでどこでも見られるようになったコンピューター室でこれを活用する駿高生たち（写真上段右）。駿高で開かれたスーパー東大実戦講座（同左）。3年生が夜間に行う特別学習会はセンター試験直前まで続く（同下）

駿中 古着回収で難民支援実践

ユニクロ甲府上阿原店の小林健一店長による出張授業（写真右）。グループごとに進めるポスター制作（同右下）。駿小玄関前で古着の回収を呼び掛ける駿中実行委員たち（同左下）

やりがいある活動に充実感漂う一。駿台甲府中生が土曜日に課題を持って取り組むのがチャレンジングサタデー（CS）だ。3年生はグループワークで取り組む「グローバリズム」で、「難民問題」を考えたのをきっかけに、カジュアル衣料品店「ユニクロ」が不要な洋服を難民キャンプに贈る難民支援活動に参加。実行委員を中心にアイデアを出し合い、集めた1586着をユニクロに託した。

「着られなくなった子ども服を集めています！」。9月中旬の早朝、校門や玄関脇で3年生の声が響いた。取り組んだのはユニクロが進める「〝届けよう、服のチカラ〟プロジェクト」だ。駿中生は「知ることから始めよう」と、7月には世界で起こっている戦争や内戦をグループ学習したほか、ユニクロ甲府上阿原店の小林健一店長を招いて、同プロジェクトについて学びを深めた。

その後、グループごとにポスターを手作り。山田伊織実行委員長が文面を考えたチラシを作成し、校内や体育祭など人が集まる場所で配るなど古着の回収活動をPRした。一方で、身長160㌢以下の子ども服が対象とあり、体が大きくなった中学生の服では限界も。駿小出身の前島良太郎さんらは駿小の教室を一つずつ回りながら協力を呼び掛けたという。

「世界の現状を知り、行動に移せたことは大きな収穫です」と前島さん。加藤達樹さんは「難民問題を身近に考えるきっかけになりました」。亀山ひかるさんは「一つのことをやり切れたことは大きかったです。実行委員以外の人もたくさん協力してくれたおかげでたくさんの服が集まりうれしかったです」と満面の笑みを見せた。樋口礼乙さんも「たくさんの服でたたむのが大変でしたが、やりがいがありました」と笑顔を見せた。

「私たちの活動を通し、多くの人に難民の現状を知ってもらうことも大切だと実感しました」と千葉瀬菜さん。山田実行委員長は「収穫の多いプロジェクトになりました。いつ自分たちの生活が一変するか分からない時代。一つ一つの行動が人種を超えて協力し合える世界へとつながることを祈っています」と話した。

今年、県内から同プロジェクトに参加したのは駿中のみ。小林店長は「事前学習で準備をしてくれていたなど、興味を持って取り組んでくれてありがたかったです」と感謝。学年主任の中村圭世教諭は「世界には光も影もあり、その影の部分もしっかり見つめることが重要と考えています。また、評価対象だからボランティアをするという人も少なくない時代ですが、本来、ボランティアとは自発的に行うものです。活動を終えた生徒たちの言葉は前向きで、人との接し方など多くのことも学べたと考えています」と話していた。

心育んだ文化講演会 影絵劇では友情考察

駿中・高文化講演会で講演する駿高OBの鈴木徹さん

駿台甲府小中高PTAは駿高OBらを招いた文化講演会を11月上旬に開催。駿中・高生には、障害者陸上の男子走り高跳び日本代表選手としてパラリンピックに5度出場した駿高OBの鈴木徹さん（山梨市）を講師に招いたほか、駿小生には「劇団スタジオライフ」（東京）による影絵劇が披露され、児童・生徒は目を輝かせた。

障害から強さ得る

「コンプレックスは邪魔なものではなく、時に武器になる。経験をどううつなげていくかが大切だと思っています」。駿高時代にハンドボール選手として活躍した鈴木さんは、高校卒業間際に起こした交通事故で右膝下11㌢を残して切断。筑波大への進学も決まり、夢も希望もあった多感な18歳の人生は事故で一変したが、多くの気付きと強さを身に付けたという。

リハビリで始めた走り高跳びだったが、高い運動能力と持ち前のジャンプ力で頭角を現し、駿高で身に付いたというチャレンジ精神で念願の日本代表に。競技を始めて19年目の今年、世界パラ陸上で見事3位に入賞し、手にした念願のメダルを生徒らに披露した。

一方で、障害者であることを思い知らされる出来事も多く「『障害者は強い』といわれますが、強くなるしかないのです」とも。障害がある友人が結婚の際、相手の父親から「障害者は無理」と言われた現実を知らされたこともあった。「障害も含めて僕。夢や目標はあればいいが、なくてもやりたいことがあればいいと思っています。僕はそうしてきました。皆さんもありのままの自分で頑張ってください」と呼び掛けた。

駿高2年の久久保泰来さんは「『普通』がどれだけ幸せなことかを実感しました。多くの人の支えがあって今がある。また、障害者の気持ちを初めて知り、気遣いある行動の大切さを感じました」。2年の小坂彰真さんは「苦手なことから逃げていた自分に気付きました。長い年月をかけてでもやり遂げ、先を見据える鈴木さんを知り、私たちはもっと頑張らなければいけないし、努力をしていきたいと思いました」と話した。

ワークショップも

一方、駿小生たちは影絵で絵本の世界を体感した。上演されたのは「あらしのよるに」と、シリーズ第2弾「あるはれたひに」（ともに講談社）。スクリーンに映し出された色とりどりの影絵と、舞台俳優の巧みな声色や抑揚ある語り口に引き込まれた。

嵐の夜に出会ったオオカミとヤギ。暗闇の中、雷が怖いという共通点から友情が芽生え、翌朝、互いの姿を知ってからも時間を重ね、欲望に心揺らぎながらもその友情を深めていった。

「影絵は黒いものだと思っていましたが、色セロファンを使うことでいろいろな色が出せると知って驚きました」と藤巻悠太郎君（6年）。嵐や晴れ渡った朝、夕暮れなどスクリーンに映し出された色鮮やかな情景に目を見張った。

影絵のワークショップでは手を使った影絵を学んだほか、選ばれた1、3、5年の代表児童がスクリーンの後ろへ。実際にオオカミなどの人形を動かしたり、自らの体を動かしたりして投影すると場内は爆笑の渦。三浦にこさん（6年）は「同じ大きさの人形もスクリーンに近づけたり、遠ざけたりすることで大きくなったり、小さくなったり。光の使い方で印象も変わり楽しかったです」と話した。

ナレーション担当者は「オオカミとヤギは、食うものと食われるものの関係。種を超えて友情を育みました。ただ、物語はまだ続きます。果たして…。皆さんには友だちとの関係を考えるきっかけにしてもらえたらと思っています」と呼び掛けた。

藤巻君と三浦さんは「自分がオオカミで、おなかがすき過ぎたらヤギを食べちゃうかも」と苦笑い。「友情が深くなると、別れがつらくなる」と友情の深まりをためらいながらも、二人は「将来は性別や人種に関係なく、幅広い友だちをつくれるようになれるといいなと思いました」と笑顔を見せた。

影絵が上映された駿小文化講演会（写真上）。劇団スタッフの話に聞き入る駿小生たち（同下）

〈企画・制作／山梨日日新聞社広告局〉

高校普通科
11月20日(月)
9:15～、10:15～、11:15～
オープンキャンパス
11月26日(日)
10:00～、14:00～
入試説明会
※いずれの時間ともに同一内容。個別相談も承ります。（事前申込不要）

高校美術デザイン科
12月3日(日)
9:30～
入試説明会
※事前申込不要
2018年1月3日(水)～8日(月)
美術デザイン科展
（県立美術館 県民ギャラリーA・B）

中学校
専願入試出願始まる!
【出願期間】
12月1日(金)～8日(金)
【試験日】
2018年1月6日(土)
一般入試出願
【出願期間】2018年1月9日(火)～12日(金)
【試験日】2018年1月14日(日)

小学校
一般入試出願始まる!
【出願期間】
～11月24日(金)
【試験日】
12月2日(土)

[塩部キャンパス] 〒400-0026 山梨県甲府市塩部2丁目8-1
■駿台甲府高等学校 普通科
TEL055-253-6211 FAX055-252-5395
http://www.sundai-kofu.ed.jp/high/

[今井キャンパス] 〒400-0845 山梨県甲府市上今井町884-1
■駿台甲府小学校
TEL055-244-0411 FAX055-220-2838
http://www.sundai-kofu.ed.jp/elementary/
■駿台甲府中学校
TEL055-243-5200 FAX055-243-5202
http://www.sundai-kofu.ed.jp/junior/
■駿台甲府高等学校 美術デザイン科
TEL055-241-5311 FAX055-241-8304
http://www.sundai-kofu.ed.jp/art/